

科目名	災害看護論 Disaster Nursing		担当教員 (研究室番号)	中西 (205) 宮崎 (207) 犬飼 (401) 脇坂 (306) 中北 (404)	教員への連絡方法 (メールアドレス)	中西 : kimiko.nakanishi@mcn.ac.jp 宮崎 : tsutako.miyazaki@mcn.ac.jp 犬飼 : sayuri.inukai@mcn.ac.jp 脇坂 : hiroshi.wakisaka@mcn.ac.jp 中北 : yoko.nakakita@mcn.ac.jp					
履修年次	4年次 後期	科目 区分	総合科目	選択 区分	選択	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
										オープンクラス	否
科目 目的	災害が人々の健康に及ぼす影響について学習する。 災害時における看護活動の実際の学習し、既習の知識、技術の統合を図る。										
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。 (知識・理解)									
	関連する DP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)									
成績評価方法 (基準)	最終レポート(100%) *授業の3分の2以上の出席をもって評価の対象となる。										
再試験の有無と 基準等	当初評価で合格点数に満たない場合には、追加レポートにより再評価を行う。 追加レポートは60点満点とし、当初評価の点数は加味しない。										
教科書	なし										
参考書等	(1)黒田裕子, 酒井明子: ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③災害看護(4版). メディカ出版										
受講者への メッセージ	災害看護は看護の専門的知識を統合した実践的な学問です。4年間の学習の集大成として、主体的に学び既習の知識や技術を統合する場としてもらうことを期待します。										
備考											
回	学習項目			学習内容			主担当 教員	授業 方法			
1回	災害の理解① ー災害看護の基礎ー			災害/災害看護の定義、災害の種類と被害・疾病の特徴、災害支援に関する制度、避難行動要支援者について学ぶ。災害サイクルについて学ぶ。●最終レポート課題の提示			中西	講義			
2回	災害の理解② ー津市の災害時被害予測と防災・減災対策 の実際ー			津市で予測されるハザード(地震・津波、台風等)および被害予測に基づいた防災・減災の取り組みを学ぶ。			学外協力 者	講義			
3回	災害時の看護活動① ー発災直後の病院における看護ー			看護管理学の立場から、大規模災害発生直後の医療施設における初期看護活動について学ぶ。 災害医療の体制について学ぶ。			中西	講義			
4回	災害時の看護活動② ー救急救命活動の実際ー			災害派遣医療チーム(DMAT)での看護活動の実際を学ぶ。			学外協力 者	講義			
5回	災害時の看護活動③ ー医療福祉施設や避難所での感染症対策ー			成人看護学(急性期)の立場から、医療福祉施設や避難所で発生しやすい感染症の特徴とその予防について学ぶ。			脇坂	講義			
6回	災害時の看護活動④ ー子どもや親への看護ー			小児看護学の立場から、被災した子ども(乳児期～思春期)に起こりやすい健康問題とその支援について学ぶ。特別な支援が必要な子供と家族への看護を学ぶ。			宮崎	講義			
7回	災害時の看護活動⑤ ー心の健康を保つための看護ー			精神看護学の立場から、被災者に起こりやすい心の健康問題とその看護、支援者の心理とその支援について学ぶ。			犬飼	講義			
8回	災害時の保健師活動 まとめ			公衆衛生看護学の立場から、災害サイクル別の保健師活動およびその役割について学ぶ。			中北	講義			

学 習 課 題

- 1回目課題(事後): テキストP14-48を参考に、災害の種類、災害関連死、災害サイクルの内容について復習する
- 2回目課題(事前): 津市ホームページで「津市地域防災計画」について概要を把握しておく
- 3回目課題(事前): テキストP70-80、「災害に備えた事業継続計画(BCP)」等について通読する
- 5回目課題(事前): テキストP97-105、「健康危機管理(感染症対策)」を通読する
- 6回目課題(事前): テキストP108-111、「乳幼児および子どもに必要な支援と看護」を通読する
- 7回目課題(事前): テキストP150-165、「被災者と支援者の心理の理解と援助」を通読する

実務経験を活かした教育の取組

・第2回、第4回の学外協力者は、実際に防災活動に従事している地域の担当者、および病院で活動している看護師であり、その経験を生かして本事業の講義を行う。本学の担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義を行う。